

拠点校のイメージについて

1 徳島県公立高校のあるべき姿

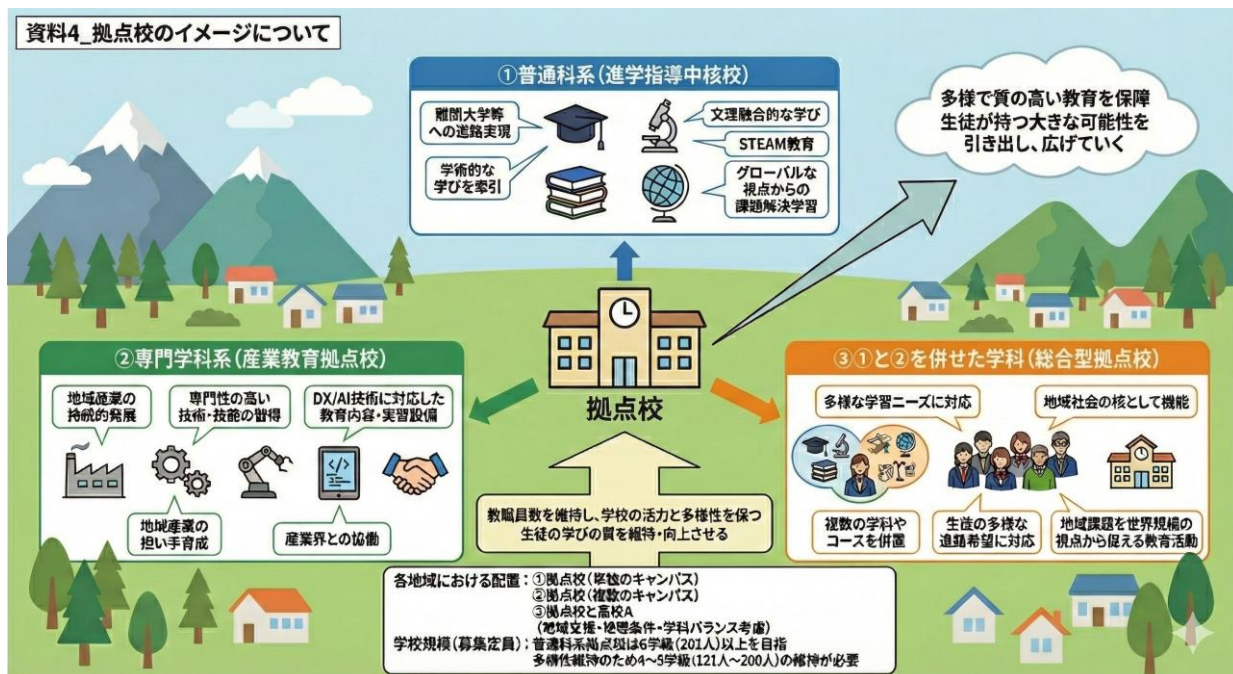
「徳島教育大綱」に示された基本方針「個性と国際性に富み、夢と志あふれる『人財』の育成」を目指し、県内のどの地域においても、生徒が持つ大きな可能性を引き出し、広げていく多様で質の高い教育を保障することが公立高校に求められる役割。

2 拠点校設置の必要性

- ・上記の役割を果たせるよう、各地域で多様な学習ニーズに対応できる教育環境を整備するため、拠点校※の設置が必要。

※拠点校とは、今後、一定の学校規模を確保することで、教職員数を維持し、学校の活力と多様性を保ちつつ、生徒の学びの質を維持・向上させる、各地域で中心的な役割を果たす学校。

(1) 拠点校のイメージ



(2) 学科

①普通科系(進学指導中核校)

- ・難関大学等への進路実現と学術的な学びを牽引。
- ・文理融合的な学び、STEAM教育、グローバルな視点からの課題解決学習を推進。

②専門学科系(産業教育拠点校)

- ・地域産業の持続的発展と専門性の高い技術・技能の習得。
- ・DX/AI技術に対応した教育内容・実習設備の整備。
- ・地域産業の担い手育成に向けた産業界との協働を推進。

③①と②を併せた学科(総合型拠点校)

- ・多様な学習ニーズに対応し、地域社会の核として機能。
- ・複数の学科やコースを併置し、生徒の多様な進路希望に対応。
- ・地域課題を世界規模の視点から捉える教育活動を展開。

(3) 各地域における配置

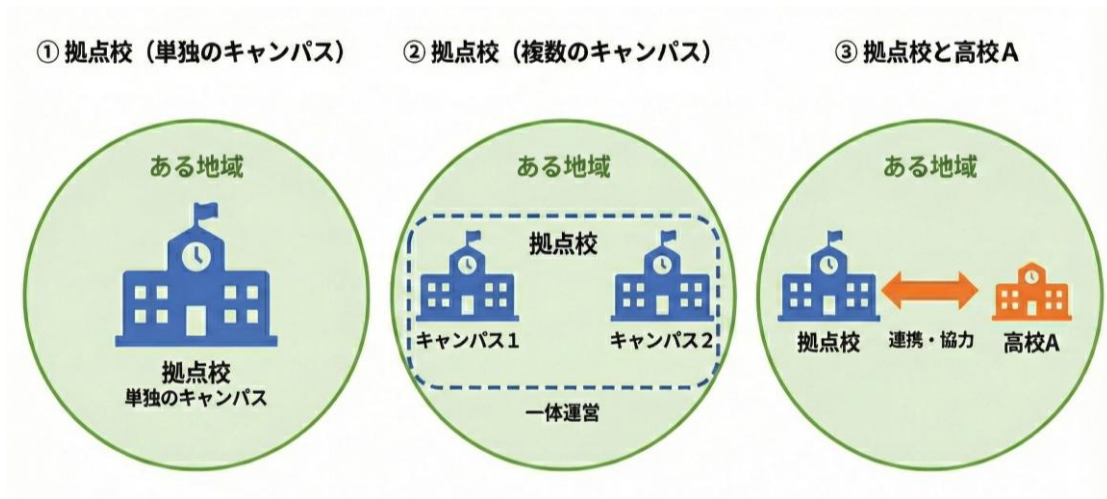
① 拠点校（単独のキャンパス）

② 拠点校（複数のキャンパス）

拠点校は、複数のキャンパスを有し、一体的に運営

③ 拠点校と高校A ※地理的条件、学科のバランス、地域からの支援などを考慮

拠点校と高校Aが連携・協力（オンライン活用等による教育内容の充実）



(4) 学校規模（募集定員）

- 普通科系の拠点校においては、多様な専門性を持つ教員配置を実現するため、他県事例を参考に6学級（201人）以上を目指すべき。
- 多様な選択科目や学校運営の活力を維持するため、4～5学級（121人～200人）の維持が必要。